みんなですすめる
まちづくり事例集
2022

道の愛称で人と気持ちをつないでいく

わが町六角橋　道の愛称プロジェクト
(神奈川区)

六角橋北町自治会で、災害時や事件・事故などいざという時に自分のいる場所を的確に伝えられるように、普段慣れ親しんだ「目印」となる坂や通りに名前を付ける活動が始まります。令和元年度に『覚えやすく、言いやすい名前』を町内で募集し３か所の坂に愛称がつけられました。

このことがきっかけとなり、今度は六角橋地区全体でも道に愛称をつけようと、自治連合会が地区全体のあらゆる場所に応募箱を設置して、小学生からお年寄りの方まで幅広い年代から応募を募り、人気投票から４つの道の愛称が決定しました。

そして、神橋小学校２年生児童、六角橋中学校美術部の生徒により案内サインのデザインが作製され、各道に設置されたことに加えて、杉山大神に総合案内板が設置されました。

これらの活動から得たつながりから、今も新たなまちづくりが進められています。

市民主体の身近な施設整備支援

地域が考える地域の魅力づくりや課題を解決していくため、地域課題や具体的取組がまとめられた地域福祉保健計画（地福計画）等、区と地域で策定されたプランに基づく市民主体の身近な施設整備を支援します。

「まずはやってみよう」

岩崎さん

過去に子ども会の会長を担った関係で、自治会の定例会に参加。そこで自治会の組織体制や各担当の住民の方などのお顔を知りました。

その後、個人で東日本大震災の災害ボランティアに参加したことをきっかけに、自分が住む町の防災対策がとても気になって森会長に声をかけたんです。自治会の防災部に所属したことで沢山気づいたことがあり、その中で、普段の話し合いでも、お互いに話題の場所を特定することが難しいことに気づきました。

さらに神奈川区「地域づくり大学校」での経験から、学んだ知識を使って、まずは身近な北町でやってみようと、森会長に今回の提案したことが始まりでした。その後活動が地区内全体に広がっていきました。

「柔軟な頭で、貴重な意見を見極め判断することが必要である」

森さん

残念ながら自治会活動に対する意見や要望を、役員が聞ける機会が多くはありません。

また、提案された新しい意見や要望を実現するには、根本的に解決しなければならないことがあり、大きなエネルギーを必要とします。

一方、地域の人から、変化を意識した新たな提言は、これからの自治会活動に求められる大切なことも多くあります。それに対して丁寧に精査することなく「できない」と言ってしまうと、意見が出なくなる懸念があります。

本プロジェクトは、町会として岩崎さんを“地域づくり大学校”に推薦し、卒業発表会の報告を受けたことから始まりました。半年間、多くの仲間と真剣に議論し、勉強した結果です。それを踏まえて理解し、検討し必要と判断したら、その意見をどう活かすかを考え、良い結果を出さなければなりません。

まちづくりに終わりはなく、知恵と時間が必要です。時代の変化に即応し、貴重な意見を一つひとつ積み重ねて、みんなで創るものと考えます。

六角橋北町自治会　防災部
部長　岩崎　さん

元六角橋自治連合会
連合会長　森　さん

※「地域づくり大学校」とは、
自治会や各種委嘱委員など地域で既に活動されている方や、これから地域で活動したいと考えている市民の方が、活動事例の見学やグループワークを通じて、地域の課題解決の手法やまちの魅力づくりを学び合う講座（18区で実施）です。

※ヒアリング当時：令和４年12月時点

森さん このプロジェクトの最大の功績は小学校などの子どもたちに声をかけたこと。協力してくれた子どもたちは「地域のことを勉強します」と、地区内の神社を訪ねるなどして一生懸命に取り組んでくれました。

岩崎さん （愛称の応募用の）投票箱は中学校の美術部の生徒さんから「つくりたい」という言葉をいただき「ぜひやって！」とお願いしたことで、さらに協力の輪が広がったのです。手作りの投票箱は、坂の多い区内でお年寄りの方にも投票してもらえるように地元のコーヒー店や郵便局など、まちのあちこちに設置しました。

　実際に道の愛称が決まるときも、子どものご父兄が「決まるのいつでしたっけ」かけてくれたり、案内サイン設置の際も駆けつけてくれた方々がいました。

森さん 案内サインのデザインを依頼した子どもたちに、「本当に僕たちが（これからずっと使うデザインを）決めていいのか」と尋ねられた時は、とても感心しました。これがまちにとって大事なものであることをよくわかっているんですね。

【愛称記念イベント】
打ち水イベントを
開催（約50名参加）

【愛称記念イベント】
教会で
音楽コンサートを
開催（約180名参加）

発行:わが町六角橋道の愛称プロジェクト　六角橋第４期支え愛プラン

さらなる活動へ

　案内サインを設置した後も、活動はさらに広がっています。「教会通り」の設定による牧師とのつながりで、クリスマスに「教会コンサート」を開催し、約180名の住民が集まりました。以降、コンサートはまちの風物詩のイベントとして継続して催されています。森さんと岩崎さんは、この「六角橋教会」を“まちの宝”だと話します。

岩崎さん 教会を地域に広く開放してくださり、かつ、コンサートをライブで動画配信するなど、自治会に限らず、さらに広がる活動をしています。

森さん コンサートには、六角橋のまちに縁のある方が出演してくれました。普段接点がなかった方々とつながる新たなきっかけとなりました。地域には素晴らしい人材がまだ沢山います。

　決定した愛称のひとつの「六角橋古道」では「打ち水」が実施され、親子など約50名が夏の涼しさを求めて参加しました。

　また、全ての道で「通りを巡る防災ウォーキング」が実施されました。

　これらに限らず、みんなで決めた「通りの愛称」がいざというときの共通の「目印」となるよう、まちに浸透させる活動がいまでも続けられています。

新たな挑戦に向けて

　先に愛称をつけた３つの坂は、現在ゼンリンの地図に掲載されていますが、いずれGoogleマップに載せたいと岩崎さんは意気込みを語ってくれました。今回つけた通りの愛称も商店街の店の案内や名刺などに積極的に使ってほしいと考えていて、タクシーに乗って行先として伝えられるくらいにまちに馴染んでくれればと話します。

　また、他地域のまちづくりを参考に地域花壇を使った花で彩り、まちを豊かにする計画など具体的な話もあげられていました。

　今後の活動も、これまで通りに無理のない範囲で、まずはやってみて、そこから情報収集と試行錯誤を繰り返し、さらなる発展を目指していきたいと話してくれました。また、やり方がわからないことなどを「どうすれば実現できるか」と考えること自体がまちづくりだと最後に教えてくれました。